

科目名	グローバル・デモクラシー論	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	佐々木 寛	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-3-350025	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究方法を体得していること			
授業の目的	<p>現代社会の様々な局面で、「地球的問題群」に対応する「市民社会スペース」の役割が注目されるようになって久しい。本講義では、これら新たな市民活動のうねりを比較的長い歴史的な観点からとらえ直し、その現代的な意味について考える。さらに、これらローカル・ナショナル・グローバルにまたがる越境的な市民社会の活動事例を、運動と制度との両面を包摂する「グローバル・デモクラシー」論の枠組みで理論的にとらえ返す。流動化する世界に呼応しつつ変容する、これら市民的实践の現実を丹念に見据え、同時にこれら実践ともなう構造的課題や問題点も明らかにしたい。テーマの性質上、受講者の自発的な参加態度が望まれる。双方向の授業に努め、必要に応じて学生同士のディスカッションなども行う。</p> <p>内容は、新鮮な題材を多く取り入れたいため細目は限定しないが、以下の内容には触れる予定である。また、反グローバル化運動や環境NGO、「エネルギー民主主義」の実践例などについての映像資料を多用する他、実際に様々な市民活動で活躍する人物を教室に招き、現場の視点から話をしてもらおうこともある。</p>				
学修到達目標	<p>本講義は、「技（アート）」の側面を重視する。受講生が、「地球市民」としての自覚、そして将来、社会的企業やボランティア、政治的实践に関わるための基本的な知識を獲得する。また将来、社会で具体的に活動・活躍するための「社会関係構築能力」の涵養も目指す。</p>				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	イントロダクション—「デモクラシー」とは何か
第2回	デモクラシーを支えるものについて—古代から現代まで
第3回	大衆デモクラシーの諸問題

第4回	地球的問題群とグローバル化時代および「惑星時代」のデモクラシー
第5回	映像資料で観るグローバル・デモクラシー
第6回	映像資料ふりかえりー多層的アイデンティティと多層的デモクラシー
第7回	現代の「コスモポリタニズム」
第8回	事例①ーオタワ・プロセス（グローバルNGOの活躍）
第9回	事例②ー地域発の試み（「グローカリゼーション」の実践 新潟における参加民主主義の経験）
第10回	現代のアイデンティティ政治
第11回	社会的企業、社会的ビジネス、企業の社会的責任について（市民エネルギーの試みなど）
第12回	市民活動における実践上の課題
第13回	招聘講師による実践例の紹介

第14回	民主主義の下部構造をつくるー「エネルギー・デモクラシー」の実践
第15回	まとめーグローバル・デモクラシーの主体と「シティズンシップ」
第16回	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間 勧められた文献や映像資料などの閲覧
【復習】時間・内容	2時間 勧められた文献や映像資料などの閲覧

成績評価	
評価基準・方法	しばしば講義の最後に、コメントカード（質問やコメント、感想を書いてもらう）を作成してもらい、それらは講義の改善に役立てるだけでなく、受講者の参加姿勢を見る材料とする。基本的に最終筆記試験の成績により評価を決定するが、随時授業以外の各種地域イベントや企画への参加を促し、その経験が活かされるような出題も行う。また、定期試験で最優秀のものは、他の学生にも参考となるため、本人の了解を得て公表する。
フィードバック方法	試験後に、講評を発表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート/グループワーク
教科書/参考書	<p>共通テキストは、D. ヘルド『デモクラシーと世界秩序』（NTT出版）、西川潤・佐藤幸男編『NGO / NPOと国際協力』（ミネルヴァ書房）、佐々木寛『市民政治の育てかた』（大槻書店）など。</p> <p>必読参考文献の一例として、高島通敏編『現代市民政治論』（世織書房）、M. ウォルツァー『グローバルな市民社会に向かって』（日本経済評論社）、目加田説子『地雷なき地球へ』（岩波書店）を挙げておく。</p>
受講上の留意点等	<p>内容的にかなり高度なことも含むので、知的好奇心が旺盛な学生の参加を望む。また、すでに「平和学」や「国際政治学」、あるいは「国際組織論」や「国際協力論」、「市民社会論」等を受講していると、相互に関連性があり、理解が深まる。</p>
JABEE	